



栄光の未来

R6.10.8 発行
第17号

地域防災 訓練

中学生にもっと期待したいのだ

昨年度までの地域防災訓練は、開催日を授業日に振り替えていたため、生徒は原則全員参加でした。しかし、今年度は授業日設定ではなく、普段と同じ週末の休日に地域で行われる活動に自主的に参加するというものでした。

ふたを開けてみたら、今回の地域防災訓練に参加した生徒は全校のわずか1割ほどでした。それぞれの開催1週間前から生徒会による昼の放送での呼びかけが繰り返し行われ、開催時間帯での部活動を原則禁止としたにもかかわらず、これほどの参加率の低さはどこに原因があったのでしょうか。大きな衝撃を受けるとともに、危機感を強く感じています。

訓練は、いざという時の備えとして行います。災害はいつやってくるか分かりません。例えば、平日の昼間に大きな災害が発生したら、地域はどういう状況になるのでしょうか。働いている大人の多くは地元にはいません。高校生や大学生のきょうだいも、東石山中の学区にはいないはずで、地元で働く一部の大人以外で地元にいるのは、高齢者と中学生以下の幼児や児童生徒だけということになります。逆に考えれば、いつ災害が発生しようとも、大半の中学生は地元にいるのは間違いありません。そのため、いざという時に一番力を発揮しなければならない、またそれを期待されている存在が中学生なのです。

様々な都合により参加できなかった生徒もいたと思います。一方で、参加した生徒の多くが地域の方と一緒に炊き出しや避難所設営に一生懸命取り組んでいた様子も目にしています。しかし、多くの生徒の皆さんが、参加できる状況にありながら参加しなかったということもまた事実です。東石山中の生徒集団という大きな見方をしたときに、授業でなくても地域の一員として自ら参加するという「自主性・主体性」が不足していたことが明らかとなりました。残念で、悔しい結果となりました。

今回の状況を振り返り、どこに課題があったのか考えてみなければなりません。自分たち自身に不足していたことは何か。学校としてもっとすべきことは何だったのか。主催する地域に改善を求めたいことは何か。ぜひ、皆さんの声を聞かせてもらいたいと思います。

活発に議論する姿勢に脱帽！

東石山中では、部活動の地域移行を先行実施しており、クラブ保護者会による休日の運営が軌道に乗りつつあります。ここまでの活動について、状況や課題を共有するために、10月4日（金）に各クラブ保護者会の代表による会議を行いました。

1時間半にわたり、大変活発に質疑や情報交換が行われました。各クラブ保護者会がお互いに質問し合ったりノウハウを提供し合ったりして、運営上の課題を自分たちで解決しようとする姿勢に感動しました。このようなクラブ保護者会に支えられて活動できているのですね。とても幸せなことだと思います。



事務局（教頭）の出る幕がほとんどないほどの会議でした。東石山中の生徒への「大きな愛」を感じました！



一生懸命に活動に取り組む生徒たち。素晴らしい！
いざという時に頼りになるのは中学生の皆さんです！